

「日々の理科」(第 2298 号) 2020, 10, 27

「晩秋の上高地紀行(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



「大正池」にはバス停もある。湖畔に「大正池ホテル」という小さなホテルがあり、その宿泊客が利用するのだ。私はそこに自転車を停めて、湖畔まで降りてみることにした。湖畔まで数分である。



大正池はまるで鏡のように静かだった。下の写真は湖と空を反転させたものだが、ほとんど違和感がない。



反対側には「焼岳(やけど)」が見える。この山も、まるで鏡のように大正池に映っている。大正池は焼岳の噴火によって誕生した。1915年(大正4年)に焼岳が噴火して、泥流が梓川を堰き止めた。それで「大正池」の名がある。



私が上高地に行った前の日に、穂高連峰は初冠雪になった。晩秋の風景に「プラスα」のサプライズである。新雪の穂高連峰は、初めて見た。



湖畔にはカメラマンがたくさんいた。大きな三脚を構えた「セミプロ」もいれば「スマホ・カメラマン」もいる。絵を描いている人もいた。少々寒かったが、私も一枚描いてみた。風景が美しすぎて、難しい!